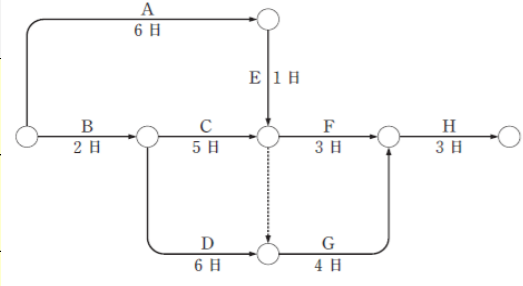


# IV 施工 1. 施工計画の項目別一覧表(1)

平成19年度 問題1	平成20年度 問題1	平成21年度 問題1	平成22年度 問題1	平成23年度 問題1
下に示すネットワーク工程表に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	下に示すネットワークによる工程表に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	下に示すネットワーク工程表に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
<p>(注) ↓ はダミーを示す。</p>	<p>1 総合施工計画書には、設計図書において指定された仮設物の施工計画に関する事項についても記載した。</p> <p>2 総合施工計画書には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工所用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示した。</p> <p>3 施工計画書に含まれる基本工程表については、監理者が作成し、検査及び立会の日程等を施工者へ指示した。</p>	<p>(注) ↓ はダミーを示す。</p>	<p>1 施工計画書には、品質計画及び環境対策に関する事項を含めて記載した。</p> <p>2 総合施工計画書には、設計図書において指定された仮設物以外の施工計画に関する事項を記載した。</p> <p>3 工事の内容及び品質に多大な影響を及ぼすと考えられる必要工事部分については、監理者と協議したうえで、工事種別施工計画書を作成した。</p>	<p>(注) ↓及び↑ はダミーを示す。</p>
<p>1 この工事全体は、最短14日で終了する。</p> <p>2 B作業の所要日数が2日増加すると、この工事全体の作業日数は、2日増加する。</p> <p>3 C作業の所要日数が2日増加すると、D作業のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)がなくなる。</p> <p>4 E作業の所要日数が2日減少すると、この工事全体の作業日数は、2日減少する。</p> <p>5 F作業の所要日数が1日増加しても、この工事全体の作業日数は、変わらない。</p>	<p>4 工事種別施工計画書は、監理者と協議したうえで、工事の内容及び品質に多大な影響を及ぼすと考えられる必要工事部分について作成した。</p> <p>5 工事種別施工計画書には、工程表、品質管理計画書及びその他の必要事項を記載した。</p>	<p>1 工事全体は、最短18日で終了する。 A作業のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)は、6日である。</p> <p>3 C作業が終了しなければ、D作業及びE作業は、開始できない。 D作業の所要日数を3日短縮しても、工事全体の作業日数は1日しか短縮できない。 F作業の所要日数を1日延長しても、工事全体の作業日数は変わらない。</p>	<p>4 設計図書に指定がない工事の施工方法については、必要に応じて、監理者と協議したうえで、施工者の責任において決定した。</p> <p>5 基本工程表を作成するに当たり、製作図・施工図の作成及び監理者の承認時期を考慮した。</p>	<p>1 この工事全体は、最短13日で終了する。 B作業が終了しなければ、D作業及びE作業は、開始できない。</p> <p>3 C作業のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)は、1日である。 D作業の所要日数を1日延長しても、この工事全体の作業日数は、変わらない。 G作業の所要日数を2日短縮すると、この工事全体の作業日数は、2日の短縮となる。</p>
<b>解答 (正解肢4)</b>	<b>解答 (正解肢3)</b>	<b>解答 (正解肢2)</b>	<b>解答 (正解肢2)</b>	<b>解答 (正解肢5)</b>
<p>1 ○ 工期で最も長くなるパス(作業日程)をクリティカルパスというが、この工事全体は、A→B→E→Gがクリティカルパスであり、最短14日で終了する。</p> <p>2 ○ クリティカルパスであるB作業の所要日数が2日増加するので、この工事全体の作業日数は、2日増加する。</p> <p>3 ○ C作業が2日増加すると、A→C→DとA→Bが同じ7日となり、D作業のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)がなくなる。</p> <p>4 × E作業が2日減少すると、A→B→E→Gは12日で、クリティカルパスA→B→F→Gの13日と比較して、この工事全体の作業日数は、1日減少する。</p> <p>5 ○ F作業が1日増加しても、A→C→D→F→G12日であり、クリティカルパス14日に影響しないので、この工事全体の作業日数は、変わらない。</p>	<p>1 ○ 設計図書において指定された仮設物がある場合は、その施工計画に関する事項について総合施工計画書に記載する。</p> <p>2 ○ 総合施工計画書には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工所用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示する。</p> <p>3 × 施工計画書に含まれる基本工程表は、施工者が作成し、監理者の承認を受ける。基本工程表には、検査及び立会の日程等を記載する。</p> <p>4 ○ 工事種別施工計画書は、監理者と協議したうえで、工事の内容及び品質に多大な影響を及ぼすと考えられる必要工事部分を作成し、監理者の承認を受ける。</p> <p>5 ○ 工事種別施工計画書には、工程表、品質管理計画書及びその他の必要事項を記載する。</p>	<p>1 ○ 工事終了の最短は、18日である。</p> <p>2 × A作業のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)は、B+C-A=5日である。</p> <p>3 ○ C作業が終了しなければ、D作業及びE作業は、A作業とB+C作業が終了しないと開始できない。</p> <p>4 ○ クリティカルパスD作業ルートは18日であり、そこを3日短縮しても、BFI作業ルートが17日かかるので、工事全体の作業日数は1日しか短縮できない。</p> <p>5 ○ BFI作業ルートが17日であり、クリティカルパスD作業ルートが18日で変わらないので、F作業を1日延長しても、工事全体の作業日数は変わらない。</p>	<p>1 ○ 施工計画書は、品質計画、環境対策、工程計画、養生計画等を記載する。</p> <p>2 × 総合施工計画書には、設計図書において指定された仮設物に関して、施工計画に記載し監理者の承認を受ける。</p> <p>3 ○ 工事の内容及び品質に多大な影響を及ぼすと考えられる必要工事部分は、監理者と協議したうえで、工事種別施工計画書を作成する。</p> <p>4 ○ 設計図書に指定がない工事の施工方法は、必要に応じて、監理者と協議したうえで、施工者の責任において決定する。</p> <p>5 ○ 基本工程表を作成する場合は、製作図・施工図の作成及び監理者の承認時期を考慮する。</p>	<p>1 ○ 最長となる最短日数(クリティカルパス)は、A→B→E→G→Hの1+3+2+5+2=13日である。</p> <p>2 ○ 矢印のダミーがあることから、B作業が終了しなければ、D作業及びE作業は、開始できない。</p> <p>3 ○ C作業のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)は、B作業3-C作業2=1日である。</p> <p>4 ○ D作業の所要日数を1日延長しても、D+F=6日の日数であり、E+G=7日があるので、この工事全体の作業日数は、変わらない。</p> <p>5 × G作業の所要日数を2日短縮すると、E+G=7日からE+G-2=5日となるが、D+F=6日があるので、この工事全体の作業日数は、1日の短縮となる。</p>
平成24年度 問題1	平成25年度 問題1	平成26年度 問題1	平成27年度 問題1	平成28年度 問題1
施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	工程の計画と管理に関する次の用語のうち、ネットワーク手法に最も関係の少ないものはどれか。	下に示すネットワーク工程表に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
<p>1 工事の着手に先立ち、施工計画書を施工者が作成し、監理者に提出した。</p> <p>2 基本工程表については、監理者が作成し、検査及び立会の日程等を施工者へ指示した。</p> <p>3 総合施工計画書には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工所用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示した。</p> <p>4 工事種別施工計画書には、工程表、品質管理計画書及びその他の必要事項を記載した。</p> <p>5 設計図書に指定がない工事の施工方法については、必要に応じて、監理者と施工者とは協議のうえ、施工者の責任において決定した。</p>	<p>1 フロート</p> <p>2 アクティビティ(作業)</p> <p>3 バーチャート</p> <p>4 ダミー</p> <p>5 クリティカルパス</p>	<p>(注) ↓ は、ダミーを示す。</p>	<p>1 設計図書に指定がない工事の施工方法については、必要に応じて、監理者と施工者とは協議のうえ、施工者の責任において決定した。</p> <p>2 総合施工計画書は、工事の着手に先立ち、総合仮設を含めた工事の全般的な進め方、主要工事の施工方法、品質目標と管理方針等を定めたうえで、監理者が作成した。</p> <p>3 工種別の施工計画書における品質計画は、使用する材料、仕上り状態及び機能・性能を定めた基本品質を満たすように作成した。</p> <p>4 基本工程表を作成するに当たって、施工計画書、製作図及び施工図の作成並びに承諾の時期を考慮した。</p> <p>5 施工計画を検討するために、敷地及び周辺の状況の調査を行った。</p>	<p>1 工事に先立ち、設計図書及び各種調査結果に基づいた施工計画書を作成し、工事監理者の承認を受けた。</p> <p>2 工事の施工途中において、当初と異なる条件が生じたので、工事監理者と協議した。</p> <p>3 総合施工計画には、工事安全衛生方針、工事安全衛生目標及び工事安全衛生計画を定めた。</p> <p>4 基本工程表については、工事監理者が作成し、検査及び立会の日程等を工事施工者へ指示した。</p> <p>5 施工計画書には、品質計画を記載した。</p>
<b>解答 (正解肢2)</b>	<b>解答 (正解肢3)</b>	<b>解答 (正解肢3)</b>	<b>解答 (正解肢2)</b>	<b>解答 (正解肢4)</b>
<p>1 ○ 工事の着手に先立ち、施工計画書は、施工者が作成し、監理者に提出する。</p> <p>2 × 基本工程表は、施工者が作成し、監理者へ提出する。</p> <p>3 ○ 総合施工計画書には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工所用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いも表示する。</p> <p>4 ○ 工事種別施工計画書には、工程表、品質管理計画書及びその他の必要事項を記載する。</p> <p>5 ○ 設計図書に指定がない工事の施工方法は、監理者と施工者とは協議のうえ、施工者の責任において決定する。</p>	<p>1 ○ フロートは、ネットワーク工程表の用語である。</p> <p>2 ○ アクティビティ(作業)は、ネットワーク工程表の用語である。</p> <p>3 × 工程表は、ネットワーク工程表とバーチャート工程表の2つがある。バーチャートは、バーチャート工程表の用語である。</p> <p>4 ○ ダミーは、ネットワーク工程表の用語である。</p> <p>5 ○ クリティカルパスは、ネットワーク工程表の用語である。</p>	<p>1 ○ クリティカルパスは、B→C→E→F→Iの2+5+1+6+2=16日である。</p> <p>2 ○ A作業5日のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)は、B→C→Eが8日なので、3日である。</p> <p>3 × C作業の所要日数を3日短縮しても、D→Hが10日(全体では2日のみ短縮)あるので、この工事全体の作業日数は、2日の短縮となる。</p> <p>4 ○ D作業の所要日数を2日延長しても、クリティカルパスの16日は変わらないので、この工事全体の作業日数は、変わらない。</p> <p>5 ○ F作業の所要日数を2日短縮すると、この工事全体の作業日数は、B→C→H→Iが2+5+6+2=15日のクリティカルパスとなるので、1日の短縮となる。</p>	<p>1 ○ 設計図書に指定がない工事の施工方法は、必要に応じて監理者と施工者とは協議のうえ、施工者の責任において決定する。</p> <p>2 × 総合施工計画書は、工事の着手に先立ち、総合仮設を含めた工事の全般的な進め方などを施工者が作成する。</p> <p>3 ○ 工種別の施工計画書における品質計画は、使用する材料、仕上り状態及び機能・性能を定めた基本品質を満たすように作成する。</p> <p>4 ○ 基本工程表を作成する場合は、施工計画書、製作図及び施工図の作成並びに承諾の時期を考慮する。</p> <p>5 ○ 施工計画の検討では、敷地及び周辺の状況の調査する。</p>	<p>1 ○ 施工者は、工事に先立ち、設計図書及び各種調査結果に基づいた施工計画書を作成し、工事監理者の承認を受ける。</p> <p>2 ○ 工事の施工途中において、当初と異なる条件が生じた場合は、工事監理者と協議する。</p> <p>3 ○ 総合施工計画には、工事安全衛生方針、工事安全衛生目標及び工事安全衛生計画を定める。</p> <p>4 × 基本工程表は、検査及び立会の日程等を書いたものを工事施工者が作成し、工事監理者の承認を受ける。</p> <p>5 ○ 施工計画書には、品質計画、仮設計画、工程計画、養生計画等を記載する。</p>

IV施工 1. 施工計画の項目別一覧表(2)

平成29年度 問題1	平成30年度 問題1	令和元年度 問題1		
<p>下に示すネットワーク工程表に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。</p>  <p>(注) ↓ は、ダミーを示す。</p>	<p>施工計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。</p> <p>1 総合施工計画書には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工所用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示した。</p> <p>2 工事の内容及び品質に多大な影響を及ぼすと考えられる工事部分については、監理者と協議したうえで、その工事部分の施工計画書を作成した。</p> <p>3 基本工程表を作成するに当たって、施工計画書、製作図及び施工図の作成並びに承諾の時期を考慮した。</p>	<p>工程の計画と管理に関する次の用語のうち、ネットワーク手法に最も関係の少ないものはどれか。</p> <p>1 ダミー</p> <p>2 アクティビティ(作業)</p> <p>3 フリーフロート</p>		
<p>1. この工事全体は、最短15日で終了する。 2. A作業の所要日数を1日短縮しても、この工事全体の作業日数は変わらない。 3. D作業の所要日数を3日短縮すると、この工事全体の作業日数は、2日の短縮となる。</p> <p>4. E作業が終了しなければ、G作業は開始できない。 5. F作業のフリーフロート(後続作業に影響せず、その作業で自由に使える余裕時間)は、1日である。 (注)No.1については、二つの正答枝があったので、枝3及び枝5を正答枝としています。</p>	<p>4 設計図書に選ぶべき専門工事業者の候補が記載されていたが、工事の内容・品質を達成し得ると考えられたので、候補として記載されていない専門工事業者を、施工者の責任で選定した。</p> <p>5 工種別の施工計画書における品質計画は、使用する材料、仕上り状態及び機能・性能を定めた基本要品品質を満たすように作成した。</p>	<p>4 ガントチャート</p> <p>5 クリティカルパス</p>		
<p><b>解答 (正解枝3、5)</b></p>	<p><b>解答 (正解枝4)</b></p>	<p><b>解答 (正解枝4)</b></p>		
<p>1 ○ 最短(クリティカルパス)は、B→D→G→H=2+6+4+3=15日</p> <p>2 ○ Aを1日短縮しても、クリティカルパスのルートは変わらないので、工事全体の作業日数は変わらない。</p> <p>3 × Dを3日短縮するとクリティカルパスは、A→E→G→H=6+1+4+3=14日となり、1日短縮できる。</p> <p>4 ○ ダミーがあるため、C、D、E作業が終了しなければ、G作業ができない。</p> <p>5 × F作業ルートは、最大でB→C→F→H=2+5+3+3=13日であり、クリティカルパス15日から、2日の余裕時間がある。</p>	<p>1 ○ 総合施工計画書には、工事期間中における工事敷地内の仮設資材や工所用機械の配置を示し、道路や近隣との取合いについても表示する。</p> <p>2 ○ 工事の内容及び品質に多大な影響を及ぼすと考えられる工事部分は、監理者と協議したうえで、その工事部分の施工計画書を作成する。</p> <p>3 ○ 基本工程表を作成する場合は、施工計画書、製作図及び施工図の作成並びに承諾の時期を考慮する。</p> <p>4 × 設計図書に選ぶべき専門工事業者の候補が記載されている場合は、その中から選定する。</p> <p>5 ○ 工種別の施工計画書における品質計画は、使用する材料、仕上り状態及び機能・性能を定めた基本要品品質を満たすように作成する。</p>	<p>1 ○</p> <p>2 ○</p> <p>3 ○</p> <p>4 × 工程表のネットワーク手法には、ガントチャートが関係しない。</p> <p>5 ○</p>		